

条件が良かった

## 北アルプス 横尾尾根～槍ヶ岳

小暮

【日 時】 2006年12月29日(金)～2007年1月1日(月)

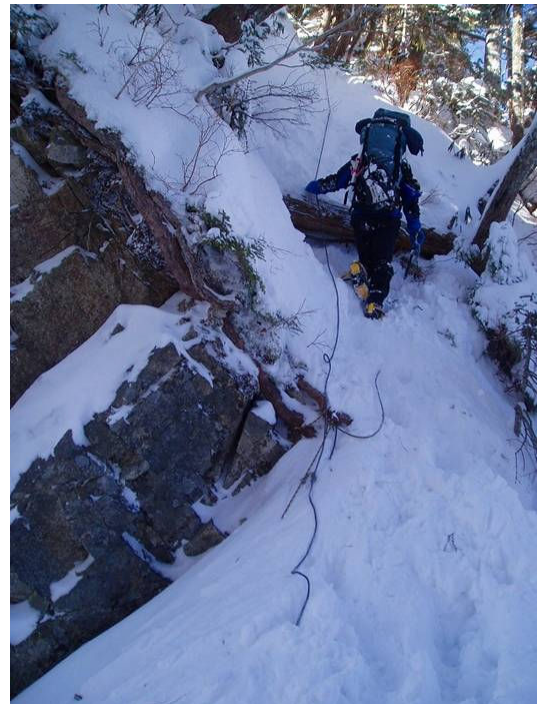
【メンバー】 小暮(L)、笹川、小川

厳冬期の槍ヶ岳を目指すルートは幾つかある。今回は簡単なバリエーションルートである横尾尾根をたどる。前夜に沢渡岩見平のドライブインの駐車場に車を置き、タクシーで中ノ湯に向かう。中ノ湯には山岳警備隊が入山届の受付をしており、登山届を出すとお茶をサービスしてくれた。大正池までの往復のハイカーや、年末年始で入山する登山者が次から次へとやってくる。山岳警備隊によれば横尾尾根には先に2パーティが入っているということだ。

釜トンネルを抜け、雪の舞う中、踏み歩かれたトレールをたどっていく。河童橋で記念撮影でもしようと思うが、一眼レフのデジカメは低温でバッテリーが動かない。しょっぱなから一枚も撮れない。がっかり。今日の予定は、横尾までで標高差があまりなので気が楽だ。雪の上高地を抜け、平坦な登山道をひたすらたどると横尾非難小屋に向かった。当初は、尾根取り付き付近にテントを張るつもりであったが、非難小屋には既に先行パーティがおり薪ストーブで暖をとっていて快適そう。我々も小屋に泊まることに変更する。小屋の中にテントを張れば非常に快適であった。

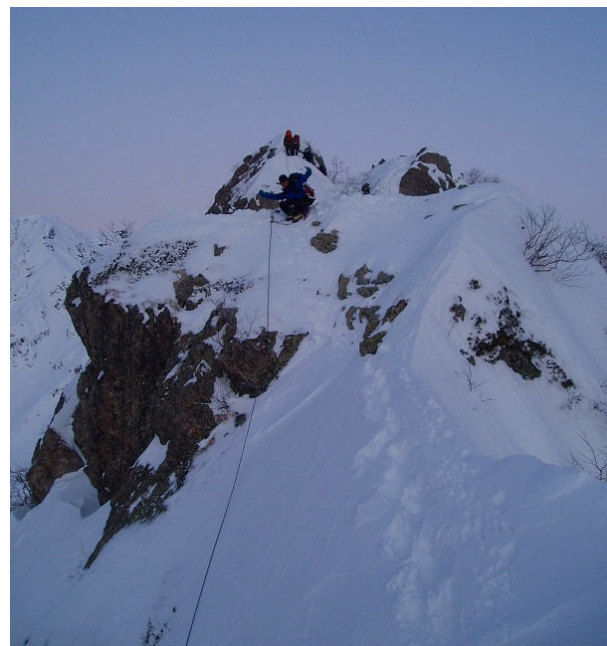
縦走者の朝は早い。トマの風の面々であれば

考えられない起床時間に起きるパーティがある。朝の2時頃からガタガタ始まった。我々も早出のつもりであったが桁違いだった。準備を済ませて出発するのは最後の方になってしまった。それでも周囲は闇の中。ヘッドランプを点けて先行パーティのトレースを追う。昨日は降雪があったこともあり、横尾尾根にはどこから取り付くか前日から頭を悩ませていたが、今年の寡雪であれば大丈夫だろうと思い3のガリーを目指す。トレースは尾根の末端付近の藪からあがっているものも見受けられる。しばらく進むと2のガリーだ。この左岸からもトレースが伸びており3のガリーへはトレースが無い。時間短縮のため2のガリー左岸のトレースをた



どるとすぐに先行2人パーティに追いついた。先へ進むと急斜面の支尾根となる。道でないところだけに、部分的に岩があったりして少々いやらしい場面もあった。

P2にでるとトレースがあった。尾根末端付近から歩いた先行パーティのものだ。少し進むと部分的に岩がありザイルを出して先頭が登っているところだった。小屋に泊まっていた9人パーティであった。しばし順番待ちである。問題の岩は何のことは無い、残置のフィックスザイルがあるので念のためにカラビナバッチマンをセットしてゴボウにつかんであっさりと通過する。その先で先行させてもらおうとラッセルが始まった。急登の部分では、胸ラッセルとなるところもあり疲れるがなかなか楽しかった。P5のあたりは雪が深く、先頭は空荷でのラッセルとなった。森林限界を越えるとアイゼンの世界だ。アイゼンワカンにしていたのでそのまま進む。風があるので泊まり場所に悩んだが、ちょうど窪状の地形がありそこに半雪洞を掘りテントを張ると快適な幕場となった。9人パーティも続いてやってきて、少し離れたところにテントを張っていた。明日は横尾の歯の通過があるのだが、明日も9人パーティの出発が目茶目茶早いと思われるので順番待ちの時間がちょっと心配である。



3日目、日の出前の出発である。やはり9人パーティは先行している。P6を越えるとザイルを出しているの、しばし順番待ちとなる。横尾の歯は、ここもフィックスザイルが張られているので、カラビナをフィックスに掛けてザイルは使わずに通過した。ザイルを出して登るつもりでいただけに、あっさりとは抜けて拍子抜けの感が強い。フィックスザイルも迷惑なものである。その先は天狗のコル

を経て急な雪壁を登ると稜線に出た。稜線に出ると風がありちょっと寒い。しかし例年とは異なり、まるで3月のような陽気で風もそれほど厳しくなかった。2年前に年末年始に燕岳から霞沢岳まで縦走したときは晴れていても稜線の風が厳しくて休むのも辛い感じであったのに。これも暖冬の影響なのか、条件が良すぎる感じだ。



稜線を北に進むと一箇所急な斜面のハシゴ場がある。ハシゴの手前までは急な雪壁で高度感があるが、ここにも真新しいフィックスザイルがあるので利用させてもらった。おかげであっさり通過してしまった。大喰岳のアップダウンを抜けて槍ヶ岳山荘に向か



う。冬季小屋にはまだ他のパーティの姿はなかった。荷物を置いて槍の穂先を往復する。スキーで飛騨沢を登ってきたパーティや、中崎尾根からの往復のパーティが居て代わる代わる山頂に立つ人が多い。山頂直下の鎖場は雪の部分もよく踏まれており、注意して登れば問題ない。山頂からは360度のパノラマを満喫し、時間もあるので随分のんびりと過ごした。風が強ければ考えられないと思うが、本当に穏やかな山頂だった。小屋に戻るとトイレが雪で埋まっていたので雪かきを試みてしばし悪戦苦闘するが、結局前室を掘り出すのに精一杯でトイレの部屋は部屋中に雪が充満していたので諦めることになってしまった。やれやれ。

4日目、今日は元旦である。出発準備を済ませて、小屋の前でご来光を眺める。八ヶ岳の上から昇る素晴らしい初日の出であった。記念撮影を済ませて下山に掛かる。下山は大喰岳西尾根や飛騨沢も考えられたが、今回は中崎尾根を下る。こちらは良く踏まれており快適に下ることが出来た。中崎尾根は、右を見れば笠が岳、左を見れば穂高の山々のパノラマが広がり素晴らしい眺めだった。こちらを下山ルートにして正解だった。楽しい下りだ。



稜線には明治大学山岳部の竹竿が10m間隔に設置されている。これだけトレースがあって迷いようのない状態なのにご苦労様である。山岳部出身の小川君によれば大学山岳部は予備日が多く荷揚げで何度も同じところを往復しながら前進キャンプを張るのだそうだ。荷物を少なくして早く抜けるという発想ではないらしい。

槍平小屋からは、傾斜も緩やかな登山道となり、もくもくと歩いて新穂高を目指す。天気が良いので良かった。今回の山行は天気にも恵まれ暖冬で異様くらい暖かかったことや、予想外のフィックスザイルの存在で実にあっさりと登ってしまった。条件が良かったとはいえこれでは少々物足りないくらいだ。一応、一週間も吹雪かれて閉じ込められることもあるエリアであるだけに今回は条件の良さにも助けられたかもしれない。次回はもう少し困難なルートに挑んでもよいかもしれない。

### 小川君のコメント

横尾尾根は古典的ルートだけあって、左に穂高、右に常念、正面に槍、と最高のロケーションでした（けど人の多さにはゲンナリ・・・）。

小暮さんたちのすばやい悪場通過、道具の話などは色々と勉強になります。お二人には、入会して2ヶ月も経たない自分を快く連れて行ってもらいました。どうもありがとうございます。しばらくは雪稜をガシガシとこなして、余裕があれば料理と高橋さんのモノマネ「おーうい」も身につけたいと思います。

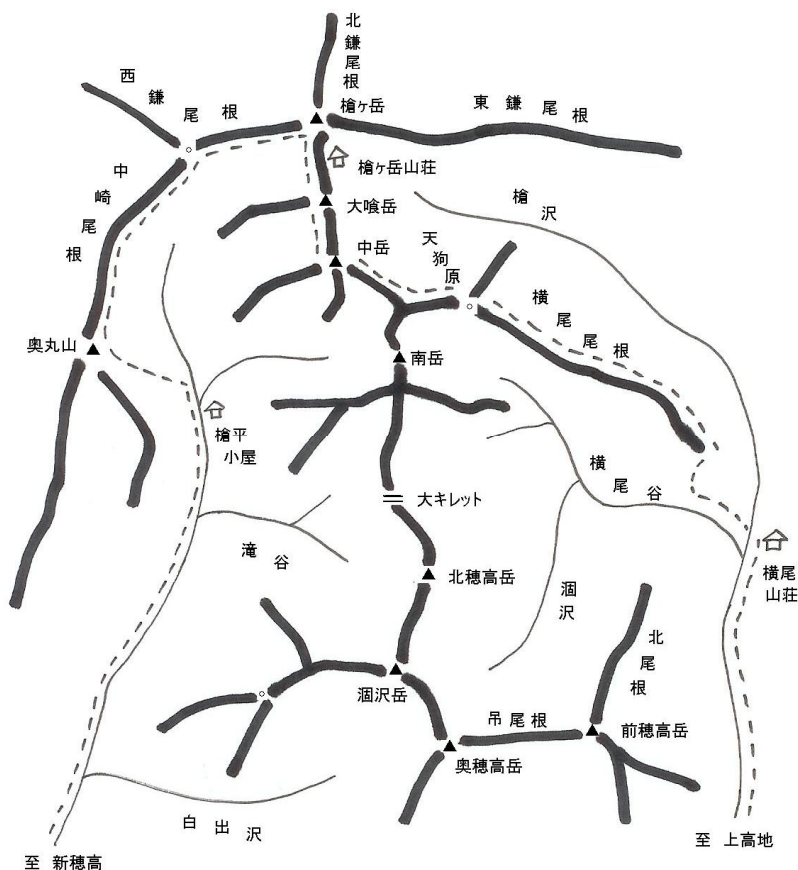
【行程】

- 12/29 中ノ湯(8:40)～大正池ホテル(9:35)～明神館(12:00)～徳沢(13:00)～横尾非難小屋 c.1(15:10)
- 12/30 c.1(5:45)～2 のガリー出合(7:00)～2 のガリー左岸尾根～P2(9:20)～P4(11:40)～P5 先 c.2(15:10)
- 12/31 c.2(6:05)～P8(8:05)～稜線(9:35)～大喰岳(11:40)～槍ヶ岳肩の小屋 c.3(12:20/13:05)～槍ヶ岳(13:25/14:15)～c.3(14:30)
- 1/1 c.3(7:15)～奥丸山分岐(9:10)～槍平(9:35/10:00)～新穂高(13:05)



【地図】

焼岳、上高地、穂高岳、槍ヶ岳、笠ヶ岳



北アルプス  
横尾尾根周辺  
概念図